

今日の説教のポイント<マタイによる福音書 19 章 1~12 節>

①離縁について考える前に — 結婚とは

離縁について聞かれたイエス様は、まず結婚について話されました。離縁の理解は結婚をどういうものかと考えるかによって違って来ますから、これは大事なことです。イエス様は、創世記から、神様が人を男と女に造られ(1:27)、その二人が一体となること(結婚)が重要なこと(2:24)を話されました。異なる二人が互いの欠けを補い合って一つになって生きる姿こそ、神様が考えておられる「人」の姿なのです。結婚は、人間だけでなく全ての異なるものが共に生きる姿の基本形なのです。

②イエス様が離縁について取られた立場 — 消極的肯定

離縁とは、そのような姿を取らず(取れず)、異なるものが共に生きる関係を解消してしまう行為なのです。では、やはり離縁は神の目から見て赦されない罪なののでしょうか? その通りです。しかし同時に、赦されない罪を赦して下さるのが父なる神様であることも、イエス様を通して知らされるのです! すなわち、イエス様はモーセが離縁を許したことを述べられています。その理由は、「あなたたちの心が頑固だから」(8)です。離縁を積極的に賛成されているではありません。人間の罪ゆえに、消極的に肯定されているのです。パウロもまた同様のことを述べています(1コリント 7:15-16)。分かりやすく言うなら、これ以上一緒にいても、さらに相手を憎むようになる場合、消極的肯定として離縁を認めておられるのです。人間の心の頑固さ(罪)がさらに大きな悪行を起こさないための、消極的肯定です。

③結婚と独身の両方に用意されている神様の最大の恵み — 天国!

最後にイエス様は、「結婚しないことを受け入れられる恵み」について語られました。ここで「受け入れられる」と訳されているギリシア語は「場所を空ける、退く、去る」という意味の語です。イエス様は、「天国のために結婚しない者もいる」(12)と言われました。天国を得るために結婚という場所からあえて身を引く。パウロがそうでしょう。結婚だけではありません。人は皆、人生において願った場所に身を置けない経験を持っています。しかし、そのために思いがけない別の喜びや目標が与えられるものです。その最たる喜びや目標こそが「天国」なのです。